

「教職センター年報」の創刊に寄せて

学長 角 重 始

本学の教員養成の原点を為しているのは、創設者武田ミキ先生の存在である。ミキ先生は1901年に現在の福山市で生まれ、90余年の生涯を女子教育一筋に捧げてきた。小学生の時に教師の道を志し、苦学を重ねながら、地元の増川実科高等女学校を卒業後、小学校勤務を経て、27歳の時に教員検定試験に合格し、呉市立阿賀実科高等女学校教諭となった。その時の実績が認められ、後に広島県指導主事に登用されている。

ミキ先生が、本学の前身にあたる広島県可部女子専門学校を設立したのは1948年のことであった。建学の精神は戦後日本の復興の担い手となる「真実に徹した堅実なる女性の育成」であり、3カ条の学園訓を掲げ、自らの貴重な実践の中から生み出された「心を育て人を育てる」を教育理念として、理想とする教育に邁進した。そして1966年に広島文教女子大学を開学し、文学部国文学科・英文学科において教員養成の課程認定を受けた。1981年には初等教育学科を開設し、ここに創設者の念願であった教員養成を人材育成目標に掲げる学科が誕生した。文学の「文」と教育の「教」を併せ持つ広島文教女子大学が、名実ともにスタートしたのである。

現在、本学は人間科学部の4学科、大学院の人間科学研究科1専攻で教員養成を行っている。その目指すところは、創設者の教育理念に基づいて「心の教育」を重視するとともに、実践力のある、人間的な魅力溢れる教師の養成にある。初等教育学科を中心に毎年多くの教員免許状取得者がおり、教員採用試験の合格者数も全国女子大ランキングで常に上位に名を連ねるなど、輝かしい実績を挙げてきた。こうした実績をさらに伸ばし、教員養成をめぐる社会の要請にも応えられるように、2008年に教職センターを設置することとなった。

本学は、昨年1月に平成23年度教職課程認定大学の实地視察を受けた。これを機に、設置の理念、養成に関わる教員の意識を再確認するとともに、センター機能をより強化し、教育課程の整備・充実に取り組むことを今後の主要な課題とした。平成24年度私立大学教育研究活性化設備整備費補助金の交付による「『ひろしま型カリキュラム』の実践に向けた授業方法の開発」は、そうした動きに弾みをつけるものとなった。これによってICT機能を備えた教職実践演習室を設置し、学生の教育・指導に役立てる一方で、県・市の教育委員会と連携をとりながら、教員の資質向上のためのプログラム開発にも力を入れていきたいと考えている。「教職センター年報」がその成果を発表する場として、今後ますます充実したものとなることを期待している。